

平成30年度 行政評価の取組結果（消防局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H30年度		H29年度		人件費（目安）		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 （基準値）	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）	金額 （千円）	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅱ-1-(2)- ① 医療・救急体制の 充実	1	応急手当の普及啓発活動の推進	救急課	救急車が現場に到着するまでの間、適切な心肺蘇生法やAEDの使用などの応急手当が非常に重要である。突然の病気やケガの時、そばにいる市民が応急手当を行えるように、応急手当の普及啓発を推進する。	応急手当講習の受講者数	43,054人 (H28年度)	目標 40,000人	40,000人	40,620人	応急手当講習の受講者数の増加	2,278	1,656	1,814	20,370	課長 0.13人	順調	応急手当講習受講への広報活動を継続して実施し、目標の40,000人を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 応急手当講習者数は、目標値を上回る市民が受講しており、また、救急救命士の資格取得者も計画的に増員している。当事業による救命効果を直接計ることはできないが、市民の尊い命が助かる奏功事例もあり、応急手当の必要性に対する市民の意識や協力体制は向上しているものとする。以上により、「順調」と判断。 【課題】 救急現場における高度かつ安全で確実・迅速な救命処置を行うため、救急救命士の知識・技術の向上を行う必要がある。	突然の病気や怪我等により傷病者が発生した場合でも、そばにいる市民が適切な応急手当を行うことができる街を目指し、普及啓発活動を継続する。救急体制の充実強化については、救急救命士の資格取得を計画的に取り組む。
	2	救急体制の充実強化	救急課	救急救命士の処置が拡大されたことに伴う追加講習を受講させるとともに、救急体制の充実強化のため、救急救命士の資格取得養成を計画的に取り組み、安全で確実・迅速な救命処置を行う。	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置	—	目標 —	—	—	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置	18,259	17,671	17,576	20,370	課長 0.13人					

平成30年度 行政評価の取組結果（消防局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H30年度		H29年度		人件費（目安）		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 （基準値）	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）	金額 （千円）	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
II-1-(4)- ③ 総合的な 消防防災 体制の構築	3	自主防災活動の推進	消防団・市民防災課	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援と訓練指導等に当たる。	全193地区における市民防災推進行事への年1回以上の参加	—	目標 193 地区・回	193 地区・回	193 地区・回	全193地区・回 （毎年度）	6,596	6,212	6,502	5,800	課長 0.20人	順調	目標の全193地区が市民防災推進行事へ参加したため、「順調」と判断。	【評価理由】 全193地区の市民防災会が、防災訓練、防災講演会等の市民防災行事に参加する（年1回以上）ことで地域防災力の向上が図られており、計画的に事業が推進されている。 また、住宅用火災警報器の設置率（87%）は全国平均（81.6%）を上回っており、住宅火災において一定の被害軽減につながっているものと考えられる。 消防団の充実強化、消防署・分署及び消防団施設の整備状況については、各施設の建築年数や耐震性等を考慮し、計画的に進行しているため、「順調」と判断。 【課題】 消防団員の充足率が減少していることから、市民の安全・安心を守るために、地域防災の要である消防団員の加入促進や確保に向けた取組を強化する必要がある。	地域防災力の向上を目的に自主防災組織「市民防災会」の育成指導を推進するとともに、住宅用火災警報器の設置率を向上させ、住宅火災による死者防止を目指す。 消防団の施設や装備等を計画的に整備し、地域防災の要である消防団活動の向上を図る。 消防庁舎は大規模災害時において、防災基盤となる施設であることから、今後も耐震化と併せて整備を進める。		
	4	住宅防火対策の推進	予防課	高齢者・障害者等の世帯への訪問活動を行い、防火・防災啓発に努めるとともに、火災や焼死事故等の防止に努める。	住宅用火災警報器の設置率	毎年度算出される全国の平均設置率 H29：81.7%	目標 81.7%	81.6%	87%	住宅用火災警報器の設置率向上	1,150	642	1,530	24,700	課長 0.80人					順調	住宅用火災警報器の設置率は、前年度から2%上昇しているとともに、全国の平均設置率を上回っているため、「順調」と判断。
	5	消防団の充実強化	消防団・市民防災課	老朽化した消防団施設を計画的に整備するとともに、消防団の装備を改善し、消防団の充実強化を図る。	消防団施設整備による地域防災力の向上	—	目標 1 施設	1 施設	2 施設	地域防災力の向上	95,197	78,840	163,034	5,470	課長 0.03人						
	6	消防署・分署の適正配置・整備	総務課	人口動態や都市構造の変化、災害の大規模化など、消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力（消防署・分署の適正配置・整備）を整備する。また、市民サービスの公平性の観点から、消防署・分署の適正配置や効率・効果的な部隊運用を推進する。	門司区の消防機能の強化 ※指標廃止（R1年度目標設定時）	—	目標 建築工事	建築工事 竣工	建築工事 竣工	R1年度開署					1,037,094	976,670	320,062				
	7	消防団施設の耐震化	総務課、消防団・市民防災課	災害発生時において防災拠点となる消防団施設の耐震化を促進するため、耐震診断の結果に基づき、耐震補強計画を作成し、耐震補強工事を実施する。	消防団施設の耐震化	消防団施設耐震：69 未耐震：26 H29.4現在	目標 工事3施設 計画2施設	工事2施設 設計3施設	工事2施設 設計3施設	R2年度開署	課長 0.09人	順調	未耐震の消防団施設の耐震化については、目標の施設数において工事及び補強計画が完了しているため「順調」と判断。								
	6	消防署・分署の適正配置・整備	総務課	人口動態や都市構造の変化、災害の大規模化など、消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力（消防署・分署の適正配置・整備）を整備する。また、市民サービスの公平性の観点から、消防署・分署の適正配置や効率・効果的な部隊運用を推進する。	八幡西区の消防機能の強化	—	目標 新庁舎・実施設計	建築工事	建築工事	R2年度開署	課長 0.50人			順調	消防署・分署については、計画的に整備することができたため、「順調」と判断。						
	7	消防団施設の耐震化	総務課、消防団・市民防災課	災害発生時において防災拠点となる消防団施設の耐震化を促進するため、耐震診断の結果に基づき、耐震補強計画を作成し、耐震補強工事を実施する。	消防団施設の耐震化	消防団施設耐震：69 未耐震：26 H29.4現在	目標 工事3施設 計画2施設	工事2施設 設計3施設	工事2施設 設計3施設	R5年度中に消防団施設の補強工事完了	課長 0.09人					順調	未耐震の消防団施設の耐震化については、目標の施設数において工事及び補強計画が完了しているため「順調」と判断。				

平成30年度 行政評価の取組結果（消防局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H30年度		H29年度		人件費（目安）		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性				
					指標名等	現状値（基準値）	H29年度	H30年度	中期目標	予算額（千円）	決算額（千円）	決算額（千円）	金額（千円）	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題					
II-2-(1)-③ 住み慣れた地域での生活支援	8	緊急通報システム	予防課	高齢者や重度身体障害者がいる世帯の火災やガス漏れ、急病などの緊急通報を消防指令センターで直接受信して対応することにより、火災や救急による被害の低減を図るとともに、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する。	高齢者等の安全・安心な生活の実現	—	—	—	—	—	33,000	35,948	43,004	9,050	課長 0.20人	順調	令和元年度での事業終了に伴う、新システム（あんしん通報システム）への移行状況は、概ね計画通りに進捗しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 緊急通報システム及びあんしん通報システムにより、火災やガス漏れ、救急など緊急事案の早期発見、早期通報が可能となり、被害の低減を図ることができていることから、高齢者等の安全・安心な生活へ十分に寄与したものと見える。 また、女性消防団による年間訪問世帯数は、実員数（142人）で訪問可能な世帯数（2,272世帯）を概ね達成したため、「順調」と判断。 【課題】 緊急通報システムについては、高齢化の進展に伴い、相談体制の拡大、通報装置の老朽化等の課題が挙げられるため、あんしん通報システムへの速やかな移行が求められる。	今後も高齢者等がより安全で安心して在宅生活ができるよう事業を実施していく。				
II-2-(1)-③ 住み慣れた地域での生活支援	9	あんしん通報システム	予防課	高齢社会の更なる進展等を踏まえ、現行の「緊急通報システム」のサービス内容の充実を図り、新たに「あんしん通報システム」の運用を開始する。看護師等による通年24時間受付可能な相談体制の充実や、緊急時の対応強化策として、民間の警備員が駆け付けるなど、高齢者等が住み慣れた家庭で、安心して生活できるよう支援する。	高齢者等の安全・安心な生活の実現	—	—	—	—	—	42,252	16,257	—	9,050	課長 0.20人	順調	令和元年度での旧事業（緊急通報システム）の終了に伴う、あんしん通報システムへの移行状況は、あんしん通報システムの稼働数が前年度より増加（平成29年度:127台、平成30年度:1,617台）しており、概ね計画通りに進捗しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 緊急通報システム及びあんしん通報システムにより、火災やガス漏れ、救急など緊急事案の早期発見、早期通報が可能となり、被害の低減を図ることができていることから、高齢者等の安全・安心な生活へ十分に寄与したものと見える。 また、女性消防団による年間訪問世帯数は、実員数（142人）で訪問可能な世帯数（2,272世帯）を概ね達成したため、「順調」と判断。 【課題】 緊急通報システムについては、高齢化の進展に伴い、相談体制の拡大、通報装置の老朽化等の課題が挙げられるため、あんしん通報システムへの速やかな移行が求められる。	今後も高齢者等がより安全で安心して在宅生活ができるよう事業を実施していく。				
II-2-(1)-③ 住み慣れた地域での生活支援	10	いきいき安心訪問	消防団・市民防災課	介護職員初任者研修修了者を中心とした消防団員が、一人暮らし高齢者世帯等を訪問し、防火・防災指導や簡単な身の回りのお世話をを行うとともに、福祉に関する相談を関係機関につなぐなど、安心感の向上を図る。	火災や重大事故発生の未然防止	—	—	—	—	—	7,339	7,264	7,866	990	課長 0.01人 係長 0.05人 職員 0.05人	順調	女性消防団による年間訪問世帯数（目標：2,464世帯、実績：2,265世帯）の達成率は91.9%であり、かつ、平成30年4月1日現在の女性消防団員142人から算定した、訪問予定世帯数2,272世帯を概ね達成でき、火災や重大事故発生の未然防止につながったと考えられるため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 本事業は、毎年8～10名の研修員を受け入れており平成30年度は41名のアジア地域からの研修員を受け入れたため、「大変順調」と判断。 【課題】 継続的な研修員の受け入れができるよう、国際協力機構（JICA）へ協力を求めていく必要がある。	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、更にアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。				
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	11	【施策評価のみ】アジアの消防リーダーとしての国際協力	訓練研修センター	【施策の内容】 アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。 【施策の指標】 アジア地域からの研修員受け入れ継続	アジア地域からの研修員受け入れ継続	—	—	—	—	—	—	—	—	—	課長 —人 係長 —人 職員 —人	—	—	【評価理由】 本事業は、毎年8～10名の研修員を受け入れており平成30年度は41名のアジア地域からの研修員を受け入れたため、「大変順調」と判断。 【課題】 継続的な研修員の受け入れができるよう、国際協力機構（JICA）へ協力を求めていく必要がある。	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、更にアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。					

平成30年度 行政評価の取組結果（消防局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					H30年度		H29年度		人件費（目安）		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 （基準値）	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 （千円）	決算額 （千円）	決算額 （千円）	金額 （千円）	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-2-(2)- ② 市民の文化芸術活動の促進	12	消防音楽隊による文化活動	訓練 研修センター	市主催の式典や消防の各種行事等に出演し、市民参加向上の役割を担うとともに、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、市のPR活動や防火・防災啓発活動を実施する。 併せて、児童の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に児童教育に貢献する。	音楽を通じた安全安心の提供及び防火・防災普及啓発	1回開催 (H28年度)	目標	2回	2回	2回開催 (毎年度)	6,731	6,814	8,646	4,615	課長	0.01人	順調	音楽を通じた安全安心の提供と防火・防災普及啓発を目的とした警察音楽隊との合同演奏は、悪天候により中止となったため、目標は達成できなかったが、消防音楽隊の出演回数は目標を上回った。 ホームページアクセス件数の達成率は目標を下回ったが、平成30年度からSNSを通じた広報活動を開始したことから、アクセス件数が減少したと予想される。 ホームページ以外のツールでの広報活動がなされており、「安全・安心」や「防火・防災」を市民に十分にPRできた。 上記から、総合的に「順調」と判断。	順調	【評価理由】 防火・防災普及啓発を目的とした警察音楽隊との合同演奏は実施できなかったが、消防音楽隊の出演回数は目標を上回ったため、音楽を通して「安全・安心」や「防火・防災」を市民に十分にPRできていると判断できる。 また、ホームページのアクセス数に関しては、目標を下回ったが、ホームページ以外のツールでの広報活動がなされていることから、総合的に「順調」と判断。 【課題】 今後、ホームページやSNS等の積極的な更新を行い、さらなる知名度の向上を図る。	今後も継続してホームページの更新、SNS、市政だより等を活用した音楽隊の広報を行い、消防音楽隊の知名度の向上を図るとともに、音楽隊演奏活動を通して児童の健全な育成につなげたい。
						消防音楽隊出演回数	156回 (H28年度)	目標	150回						150回	消防音楽隊出演回数の増加					
Ⅶ-1-(3)- ② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	13	【施策評価のみ】アジアの消防リーダーとしての国際協力	訓練 研修センター	【施策の内容】アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州市消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。	【施策の指標】アジア地域からの研修員受け入れ継続	アジア地域からの研修員受け入れ継続	目標	受入	受入	アジア地域からの研修員受け入れ継続	—	—	—	—	課長	—人	—	—	【評価理由】 本事業は、毎年8～10名の研修員を受け入れており平成30年度は41名のアジア地域からの研修員を受け入れたため、「大変順調」と判断。 【課題】 継続的な研修員の受け入れができるよう、国際協力機構（JICA）へ協力を求めていく必要がある。	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、更にアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。	
						実績	23名	41名	職員						—人						
						達成率	—	—													